

対話型美術館展示支援システム

勝見順一[†] 渡邊貴之[†] 湯瀬裕昭[†] 曾根一樹^{††} 泰井良^{†††} 鈴木直義[†]
静岡県立大学経営情報学部[†] 株式会社静岡システムテクノロジー^{††} 静岡県立美術館^{†††}

1. はじめに

美術館の展示は学芸員の創作表現であり学術的主張である。しかし、その創作は展示の終了と同時に消滅し、わずかに図録の中に痕跡が残るだけである。そこで、筆者らは、保存、伝達をする手段としてオンデマンド仮想美術館システムの開発を行ってきた^[1]。当初は、著作権等の制約で、同システムの機能をスタンドアロン環境下に限定してきた。その後、インターネット経由で Web ブラウザを用いて閲覧・展示が可能な Web 対応版仮想美術館システムを開発した^[2]。しかし、この Web 対応版仮想美術館システムでは、リモートコミュニケーション機能が不十分であった。そこで本研究では、遠隔地間の学芸員達の展示企画や学術的交流をより積極的に支援することを目的とし、リモートユーザ間での視点共有機能の開発、実装などにより機能を強化した対話型美術館展示支援システムを開発した。

2. 対話型美術館展示支援システムの構成

仮想美術館システムでは展示室の建築データや美術品の画像データを、システムを利用するコンピュータに格納する必要があった。本システムではこれらのデータを Web サーバ上に置き、動的に読み込む機能を実装した(図 1 参照)。展示室表示 Plug-in は Web サーバから展示室建築データと展示画像データが含まれる URL リストを XML 文書として受け取る。そして、それらの URL からデータを読み込むことによって 3D で描かれた展示室を描画する。

また、展示室表示 Plug-in はブラウザに読み込まれると同時に、サーバに作成されているセッションに参加する。あるユーザが起こしたアクションは同じセッションに参加しているユーザすべてに送信され、反映される。このために、スクリーンに表示されている展示室は常に同期される(図 2 参照)。

上記のような機能追加によって、ユーザ間で視点が共有され、視覚情報が強制される。さらに、チャットとの併用によってより即時的に展示企画などの創作活動を実行することが可能になる。

3. 学芸員間のリモートコラボレーション

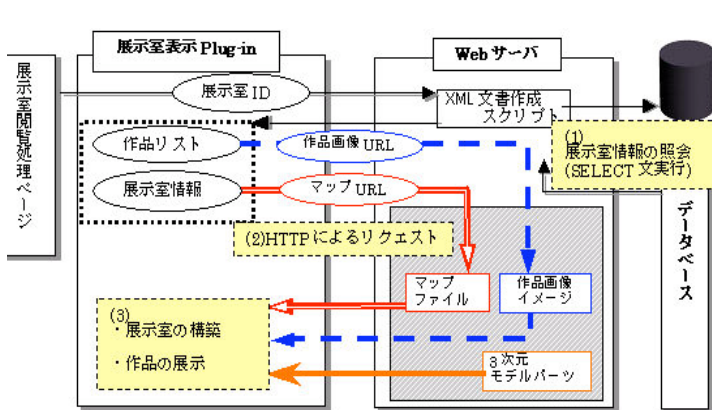


図 1 展示室 Plug-in のデータ取得プロセス

本システムを使用することで、遠隔地の利用者間の即時的コミュニケーションが容易になり、学芸員の展示企画に際して、遠隔地にいる他の学芸員や専門家の支援を得ることが可能となる。これにより展示の経験、ノウハウが融合し、スタンドアロン環境下ではなし得なかった新しい価値の創造が期待できる。また、学芸員がいない美術館での展示において、単に美術品の陳列ではなく、遠隔地の学芸員の経験や専門家の学識に裏打ちされた、創造性溢れる展示への支援を期待することが可能になる。

4. 展示シミュレーション

また、本システムは展示のシミュレーションや評価などへの派生的な活用が期待できる。本システムに実装した対話機能は、学芸員とネット上の多数で多様な一般の美術鑑賞者が利用できる。このことにより、展示に込めた学芸員の意図を鑑賞者へ、そして、鑑賞者の展示に対する評価を学芸員へ、より正確かつ積極的に伝達しフィードバックすることができる。

5. 今後の予定

仮想展示空間内の鑑賞者の行動をより精密に記録し、分析することで展示評価に反映させる機能をシステムに追加する。さらに、本システムにより収集、蓄積された過去の展示ログから、着目した特定の学芸員の展示に対する傾向、コンセプトを分析、データベース化する。これを基に、展示のテーマや特定のキーワード、展示作品の点数、展示室の物理的な条件などを与えることによって、個別の学芸員独自の展示コンセプトを反映した展示企画の原型を自動的に生成するオート・キュレータ機能へと拡張したい。

参考文献

- [1] 佐々木俊充, 稲垣真紀, 細澤新太郎, 渡邊貴之, 湯瀬裕昭, 鈴木直義, 泰井良: "オンデマンド仮想美術館のための Web 投票システム," インターネットコンファレンス 2001 論文集, p.184, 2001 年 11 月。
- [2] 曾根一樹: "仮想美術館の Web 対応化" 卒業論文, 静岡県立大学経営情報学部, 2003 年 1 月。

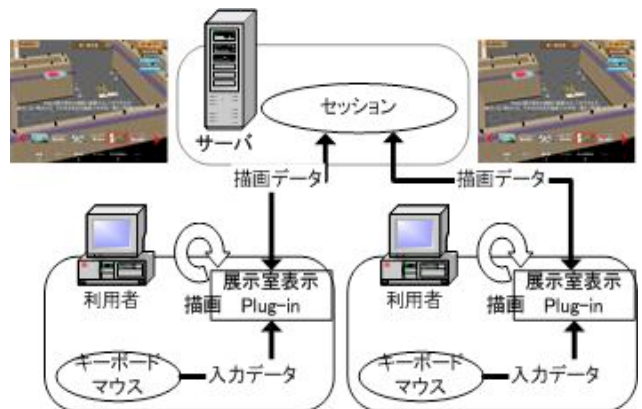


図 2 システム利用者の視点共有の仕組み